

抄録要旨

2020（令和2）年から新型コロナウイルスが猛威を振るい、当法人は利用者への感染を防ぐため施設職員に対し十分な注意喚起や行動制限をしてきた。感染の危険のある職員については感染拡大を防ぐため自宅待機をするなどの体制を取った。2020（令和2）年4月から2023（令和5）年5月にかけて新型コロナ感染症の疑いで欠勤をした数とその理由について集計を取り、全国で流行した第1波～第8波との関係性を考察する。

【抄録】

（テーマ）

コロナ疑いでの職員の欠勤者数と理由について

【はじめに】

当法人は大阪市住之江区に6施設、合計600床の受け入れをしている。職員は約400人従事している。

2020年から新型コロナウイルスが猛威を振るい、当法人は利用者への感染を防ぐため、施設職員に対し十分な注意喚起や行動制限を指示してきた。職員に対して有症状時の報告をすること、少しでも症状が出た場合は自宅での待機をする徹底を行った。2021年2月より大阪市の支援による定期的なPCR検査を月2回実施と2022年5月より大阪府の支援による介護従業者の3日に1回抗原検査を実施することで感染予防の拡大とを防いでいたが、日本国内の感染者が増加する中、職員も多くの感染者が出る事態となった。

2020年4月から2023年5月にかけて新型コロナ感染症の疑いで欠勤をした数とその理由について集計を取り、また全国で流行した第1波～第8波の感染者数との関係性を考察し報告する。

【集計】

2020年4月から2023年5月にかけて新型コロナ感染症が原因で欠勤した職員について月単位で集計を行った。欠勤理由としては新型コロナ感染症の疑いのある症状があった職員、同居者や家族に症状があった職員、感染したものと接触した可能性があった職員、定期的な検査で感染が分かった職員を対象とした。

職員が新型コロナウイルスに感染したのは188名（26.8%）、家族や同居者が感染したのは108名（15.5%）、有症状で欠勤した職員が177名（25.3%）、家族が有症状となり欠勤した職員が129名（18.5%）、学校や職場で家族が接触したために欠勤した職員が82名（11.7%）、その他が15名（2.2%）、（2回以上欠勤した職員も含む）延べ699名の職員が欠勤した。

第1波から第8波までの期間別で当法人の欠勤者数と感染者数をみると

第1波	2020年3月~2020年5月	26名	(内陽性者0名)
波間	2020年6月	9名	(内陽性者0名)
第2波	2020年7月~2020年9月	25名	(内陽性者0名)
波間	2020年10月	7名	(内陽性者0名)
第3波	2020年11月~2021年3月	53名	(内陽性者2名 3.7%)
第4波	2021年4月~2021年6月	34名	(内陽性者0名)
第5波	2021年7月~2021年10月	58名	(内陽性者4名 6.9%)
波間	2021年11月~2021年12月	4名	(内陽性者0名)
第6波	2022年1月~2022年3月	150名	(内陽性者35名 23.3%)
波間	2022年4月~2022年6月	49名	(内陽性者14名 28.5%)
第7波	2022年7月~2022年9月	137名	(内陽性者66名 48.1%)
波間	2022年10月	11名	(内陽性者3名 27.2%)
第8波	2022年11月~2023年1月	95名	(内陽性者47名 49.4%)
波間	2023年2月~2023年5月	41名	(内陽性者17名 41.4%)

【考察】

また、第1波から第8波までの期間別で日本全国と大阪府と当法人の欠勤者数、感染者数をみると（全国の人口概数 12,250 万人・大阪府の人口概数 881 万人・法人約 400 人）

第1波	16,500名	0.013%	1,779名	0.02%	26名	6.5%	0名	0%
波間	1,935名	0.002%	60名	0.001%	9名	2.25%	0名	0%
第2波	65,404名	0.052%	8,826名	0.1%	25名	6.25%	0名	0%
波間	17,720名	0.014%	2,207名	0.025%	7名	1.75%	0名	0%
第3波	375,938名	0.3%	40,006名	0.454%	53名	13.25%	2名	0.5%
第4波	323,783名	0.258%	50,674名	0.575%	34名	8.5%	0名	0%
第5波	921,055名	0.734%	98,982名	1.124%	58名	14.5%	4名	1.0%
波間	12,028名	0.01%	1,444名	0.016%	4名	1.0%	0名	0%
第6波	4,879,889名	3.888%	594,562名	6.749%	150名	37.5%	35名	8.75%
波間	2,741,065名	2.184%	217,836名	2.473%	49名	12.25%	14名	3.5%
第7波	11,970,858名	9.539%	1,082,313名	12.285%	137名	34.25%	66名	16.5%
波間	1,034,455名	0.824%	72,168名	0.819%	11名	2.75%	3名	0.75%
第8波	10,227,570名	8.149%	601,673名	6.829%	95名	23.75%	47名	11.75%
波間	1,214,297名	0.968%	79,617名	0.904%	41名	10.25%	17名	4.25%

第1波と第2波の時は職員が発熱だけでも2週間自宅待機していた。また欠勤中に再度発熱することで欠勤期間が伸びた。第3波から第5波で保育園、小学校で陽性者が発生し休校となり欠勤するスタッフが増加した。第6波から第7波では家族に感染者が増加したのち、職員の感染が一気に増えた。第8波ではインフルエンザになるケースが現れた。いづれにせよ長期間の欠勤により業務に支障がでた。しかし、発熱などいつもと少し違う症

状があった時に自宅待機をすることによって当法人の感染者数を全国の感染者数・大阪府の感染者数と比べると、第5波までは感染拡大を未然に防ぐことが出来たと考えられる。

【まとめ】

感染者数は低い数字に抑えることはできたが、感染経路については行動制限の指示をしたのにもかかわらず、いわゆる3密状態で過ごしていたことが原因で感染したケースもあったため、職員一人一人がもっと注意した行動をとっていれば感染者数を減らすことが出来たと考えられる。2023年5月から5類になったことで社会全体が緩和の方向に進んでいるが、私たち介護に携わる者として、あくまで大切なのは利用者であることを自覚して今後も感染に十分に注意しながら行動をしなければならない。